



百人一首と CL(一)

2016

David K. Reynolds

この随想集は日本の百人一首が元になっています。どの作者の詠んだ一首か、捜し当てるのも一興です。アメリカ・ロスアンゼルスでのCLインストラクターPaul Kronerさんが世界中のインストラクターに毎月発信している”CL News”letter に一首ずつ掲載されています。

私の裏庭になっているブラックベリーのつるは
決して諦めるなと思わせてくれる
雑草を引き抜くときに「ごめんなさい」

衣類乾燥機は便利
でも風はやさしく乾かしてくれる
額の汗も

ジェットラグで眠れない
夜中、コンピュータが付き合ってくれる

遅い春、山肌に固まった溶けない残雪
汚れて疲れている
同じもの同士

水は死なない
目の前から消えても
人の記憶から私が消えるのは自然なこと
雨はときどき降る

安全に飛ぶ可能性を知っても
乱気流にぶつかったとき、怖くて震える

前進は展望を失うリスクを伴う
後退は影響を失うリスクを伴う
よって人生の盛衰に没頭する

子供の頃、月が落ちると想像した
今はもっと円熟した空想を持つ
悩むために

近頃は秋の火のような色が
冬に入ってからも続く
髪にはわずかに白髪がある
太陽と雪は共存する

名前と顔が心から滑り落ちる
忘れた場所は新たな訪問先
新しい一瞬は二度と現われない
経験した過去が膨大でも

都市は航空会社によってつながり合う
人々はモバイル通信でつながる
今一人で、書いている

待つことへの終わりはない
年齢と経験がいろいろな見方をもたらす
そうでなければあきらめ

(アメリカ・オレゴン州CLセンター所長)